

# 日本鐵鋼協會記事

## ◎理事會

大正十三年四月九日（水曜日）午前五時より本會事務室に於て理事會を開き左の事項に就きて協議せり。

- 一、入退會者に關する件（承認）
  - 一、舊會館跡借地權の件
  - 一、工學會照會の各學會共同會館建設の件
- 右は賛成にて委員には鹽田泰介君選任せられたり。

一、工學會照會の「工學會雜錄」發行の件

右は賛成にて委員には俄國一君選任せられたり。

- 一、來る四月三十日講演會開催の件（可決）
- 一、其他會務に關する件

當日出席者は河村曉君、俄國一君、香村小録君、今泉嘉一郎君、鹽田泰介君等なり。

## ◎編輯會

大正十三年四月九日午後五時より本會事務室に於て編輯會を開き會誌第十年第五號の原稿を選定せり。

當日出席者は川上義弘君、田中清治君、三島徳七君、山本貞次郎君、行方畝三郎君、小島精一君等なり。

## ◎本多博士より倭理事への通信

拜啓陳者四月十六日桑港へ着し候米國東部へ來てよりは  
Am. Soc. of Steel Treating より各地へ小生の來るのを通知せる爲め各市の學會より大に歓迎せられ Prof. Dr. 等の方々が迎へに來て自動車にて案内して呉れる爲め工場見物は自由

に候講演はミネアポリス、クリーブランド、ピッツブルグ、ヒラデルフィア、ワシントン等にてやり候見物後紐育に入り渡英の豫定に候  
敬白

## ◎入退會者

前記役員會に於て入退會を承認せられたる會員左の如し。

### 入會者（住所及職業）

#### 終身會員

三菱造船株式會社研究所長、工學士 莊田達彌

（河）大 矢村 紹介者 喜兵

#### 正會員

古河鐵業會社技師、理學士 福地信世

（同）川上 義弘

名古屋市大同電氣製鋼所技師、工學士 竹内保資

（小）川上 義弘

八幡市製鐵所陸軍検査官、砲兵少佐 藤岡六之助

（大）川上 義弘

吳海軍工廠製鋼部、工學士 武林誠一

（吉）室井 嘉治

丸ノ内八重洲町一ノ一、久原ビルデン

（服）大 矢部 喜兵

カ三階、漢治洋公司 東京事務所 鈴木彦治郎

（大）服 大 矢部 喜兵

#### 准會員

三菱造船株式會社研究所技師 照内梅太郎

（河）村 曉

三菱造船株式會社研究所技師、理學士 深川庫造

（同）原 隆 吉

神戸市三菱電機株式會社技師 原 隆 吉

（戸）波 親 平

京都帝國大學冶金科學生 外島健吉

（同）前

#### 退會者（住所及職業）

東京美術學校教授、工學士 正員 森井健介

（同）山本直孝

三菱神戸造船所技師 相州葉山村堀ノ内一五三

（同）半田守之助

市外青山穩田九〇

（同）堀内信太郎

横濱市浦賀船渠會社、工學士 同 上村行榮

（同）同

相州浦賀船渠會社 同 増田喜太郎

（同）同

東京鋼材株式會社技師  
 芝區白金志田町七四、機械商  
 庄川水力電氣會社  
 八幡市製鐵所技手  
 茨城縣日立製作所  
 福岡縣戸畑町三丁目、鑄造業

同 川澤政吉  
 同 井口常次郎  
 同 佐々木保三郎  
 同 今梅之助  
 同 武田愛之助  
 同 庄崎熊吉

### ◎第九回通常總會記事

大正十三年三月二十九日（土曜日）午後二時半より東京市麴町區永樂町二丁目一番地日本工業俱樂部第一階會議室に於て第九回通常總會を開く、出席者は正會員五十六名、委任投票人員三十三名合計八十九名（正會員總數八百一名）外に准會員四十名にして出席正會員名左の如し。

倭國	一	今泉嘉一郎	鹽田泰介
香村	小錄	河村 驍	種子田 右八郎
桂	辨三	吉川雄輔	野田鶴雄
大塚	榮吉	高洲清二	水谷叔彦
井上	匡四郎	井上禧之助	堤 正義
服部	漸	横堀治三郎	松田萬太郎
日向	庄作	島岡亮太郎	杉村伊兵衛
加藤	榮	島安次郎	湊 一 麿
鈴木	顯三	廣田理太郎	今井 弘
齋藤	彌平	江口雄太	長谷川正五
川部	孫四郎	東亞通商株式會社	松浦春吉
阿部	又三郎	諏訪常次郎	小林文郎
宮本	繁志	石 黒 豊	藤本磐雄

東洋製鐵株式會社 行方畝三郎 大矢兵喜  
 古河電氣工業會社 秋山正八 相原鉄次郎  
 理化試驗所 伊東久米藏 朝倉希一 佐藤作次  
 佐藤耕夫 鈴木和志理 前川益次  
 永田五郎 林幾太郎 谷山熊雄  
 水橋義之助 渡邊三郎（以上五十六名）

### ○開會の辭 會長 倭國 一君

（會長倭國一君議長席に着す）

是から鐵鋼協會の第九回通常總會を開きます、先づ會長、理事及び評議員の半数改選のことでありますが、豫て御投票を願つて置きました、尚ほ御出席の方で投票を御提出にならぬ御方は此の際、どうか御投票を願ひます、それで開封するのに時間をとりますので、別席に於きまして致したいのです、立會人と致しまして、加藤榮君、山今貞次郎君、行方畝三郎君の三君を御願ひ致します、如何でございませうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○議長（倭國一君） 御異議がなければさう云ふことに致します。

○議長（倭國一君） 次に議事の方に移りまして、第一に會務報告であります、昨年御承知置きやうに、東京の大震災の爲に本會も類焼の厄を蒙りまして、残念ながな多大なる損害を蒙つた次第であります、誠に遺憾のことであり、豫て本會々誌にも御報告申上げて置きましたが、尚ほ會務報告と致しまして書記長から御報告申上げることと致します、其の他會計報告は本日刷り物と致しまして御手許に差上げます

50  
ことになつて居ります、それに付きましても書記長より朗讀  
いたします。

【書記長大矢喜兵君朗讀】

大正十二年度會務報告 (自大正十二年三月一日  
至大正十三年二月二十九日)

一、集會

總會 一回

評議員會 四回

理事會 十回

編輯委員會 十二回

講演會 六回

二、會員異動

一、入會者

正會員 二十九名

准會員 五十八名

合計 八十七名

一、准會員より正會員に資格變更者 三名

一、退會者

正會員 五十四名

准會員 六十三名

合計 百十七名

一、死亡者

正會員

杉本喜市君

葛藏 治君

野呂景義君

今田時太郎君

渡邊芳太郎君

准會員

金箕 明君 村恒之助君

以上七名を喪ひたるは哀悼の至りなり

殊に本邦製鐵界の權威にして本會前會長たる野呂博士及本  
會評議員渡邊、葛兩博士の遠逝は痛惜に堪えざる所なり

三、會員總數 (大正十三年二月二十九日現在)

贊助會員 九名

正會員 八百一名

准會員 五百二十二名

合計 千三百三十二名

四、役員異動

一、理事野呂景義君は大正十二年九月八日死亡したるに付

大正十二年十一月二十八日評議員會に於て河村曉君を理  
事に選任せり。

一、評議員葛藏治君は大正十二年八月二十三日、同渡邊芳

太郎君は同年九月二十三日死亡し且つ同河村曉君は理事  
に選任したるに付、同年十一月二十八日評議員會に於て

宗像十郎君加藤榮君並に梅野實君を評議員に選任せり。

一、編輯委員櫻井爭三君は米國へ留學の爲め、同室井嘉治

馬君は吳海軍工廠へ轉任したるに因り、役員會に於て三  
島徳七君を編輯委員に囑託せり。

五、本會々館震火災遭難の件

大正十二年九月一日の大震火災に際し本會々館は類焼の厄  
を蒙りたるが幸にして重要帳簿類は安全に取り出したり、  
其詳細は十月號の會誌に報告せるが、會誌發行を二ヶ月間  
休刊の已むを得ざるに至りたるは遺憾の次第なり、茲に會

員諸氏の御諒察を乞ひ併せて將來に對し其の協同助力を熱望す

六、事務所變更

大正十二年十月三日評議員會の決議に因り本會事務所を麴町區永樂町二丁目一番地日本工業俱樂部内に變更せり

七、會誌の發行

本會々誌「鐵と鋼」を第九年第三號より第十年第二號迄合計十回發行せり。但し八、九兩月分は前述の理由に因りて休刊せり

八、調査事項

一、帝都復興用鋼材に關する建議

大正十二年十一月二十八日評議員會に於て決議の上帝都復興用鋼材に關する建議書を作製し同年十二月二十五日内閣總理大臣大藏大臣農商務大臣復興院總裁八幡製鐵所長官並に關係諸方面へ提出せり

九、講演會

大正十二年度本會に於て開催せる講演會左の如し。

一、大正十二年三月三十一日

本邦製鐵業の趨勢

會長 工學博士 倭 國 一君

世界に於ける高級鋼材製造方法の趨勢

海軍造兵少將 工學博士 野 田 鶴 雄君

一、同年四月十八日

ニッケル及ニッケルクロム鋼並に

其他二三の合金鋼に就て

(獨逸語講演通譯附)

日本鐵鋼協會記事

獨逸工學博士 アー、ヴキルチエック君  
一、同年六月六日

チエック・スロバキア國の製鐵業

(英語講演)

ドクトル、インヂェニウル、エルドマン、コトニー君

一、同年七月四日

獨逸に於ける最新の事業合同法に就て

工學博士 今泉嘉一郎君

以上芝區烏森町四番地 舊本會々館に於て開催

一、大正十三年一月十九日、大阪市大阪鐵工業會館に於ける

機械學會聯合講演會

Study on Casting Stress.

東京高等工業學校教授 杉村伊兵衛君

熔融金屬の流動性に就て

陸軍砲兵少佐 工學士 林 狷 之 助君

鋼鑄物に就て

住友製鋼所技師 野 村 靜君

鑄鐵鑄物の出來損じの原因と其豫防法

海軍造機大佐 工學博士 石川登喜治君

一、同年一月二十三日、丸ノ内帝國鐵道協會に於ける講演會

會

獨逸國に於ける電氣製鋼業に就て

獨逸工學博士 アイ・ヴキルチエック君

金屬熔射被覆(メタリコン)に就て

陸軍砲兵中佐 工學士 川 上 義 弘君

十、圖書寄贈

本年度に於て寄贈を受けたる圖書部數は合計百四十三冊なり

右及報告假也

大正十三年三月二十九日

日本鐵鋼協會々長

理事 倭 國 一

○議長(倭國一君) 是より書記長から會計報告書を朗讀いたします。

【書記長大矢喜兵君朗讀】

大正十二年度收支決算報告

(自大正十二年三月一日 至大正十三年二月廿九日)

收入之部

正會員會費	五、二一三、〇三
准會員會費	二、四六三、五〇
入會金	一一四、四〇
廣告料	七〇八、三二
利子	一、〇八五、八三
雜收入	一九八、三九
預金より繰入金	二、四六三、九五
合計	二二、二四七、四二
支出之部	
會誌費	五、四五二、六四
事務費	一、八二七、二七
火災保險料	八四、八八
報酬及手當	三、四五五、〇〇
地代及借室料	一九二、三〇

會合費	七〇一、〇〇
諸税金	一八、五五
什器	九四、〇四
圖書費	一〇五、三二
工學會々費	二〇〇、〇〇
修繕費	一一六、四二
合計	一二、二四七、四二

財産目録

家屋及土藏	三三、〇〇〇、〇〇	大正十一年度末	三三、〇〇〇、〇〇	大正十二年度末
什器	二、五九五、〇〇		二、五九五、〇〇	九四、〇四
圖書	二、〇二一、〇九		二、〇二一、〇九	一〇五、三二
銀行預金	二二、四五〇、五七		二二、四五〇、五七	二四、四三一、三九
建物維持資金	九九〇、四一		九九〇、四一	〇〇二、四六
振替貯金	一、一〇〇、七九		一、一〇〇、七九	三七二、五四
會誌發行擔保	九〇七、〇〇		九〇七、〇〇	九〇七、〇〇
振替貯金基本	一〇、〇〇		一〇、〇〇	一〇、〇〇
約東郵便擔保	二〇、〇〇		二〇、〇〇	二〇、〇〇
北海道拓殖銀行債券				六、〇二二、六〇
京阪電氣鐵道株式會社				三〇〇、〇〇
現金	一四、四三		一四、四三	一、二一
合計	六二、一〇九、二九		六二、一〇九、二九	二二、二六六、五六
差引減少額				三八、八四二、七三

備考 以上對照表に示すが如く大正十二年度は震災の影響に因り三萬八千餘圓の財産を減少し且つ經常費に於て二千四百餘圓の不足を預

金中より繰入填補の已を得ざる至りたるは遺憾とする處なり

大正十三年度收支豫算 (自大正十三年三月一日 至大正十四年二月二十八日)

収入之部

正會員會費	六、三〇〇、〇〇
准會員會費	二、八八〇、〇〇
入會會金	一五〇、〇〇
廣告料	八〇〇、〇〇
銀行預金利子	八九四、一三
公債社債利子	五〇六、〇〇
雜收入	四六四、六〇
贊助會員寄附	二〇〇、〇〇
合計	一二、一九四、七三

支出之部

印刷費	六、〇〇〇、〇〇
原稿料	二五〇、〇〇
約束郵便料	一一〇、〇〇
事務費	一、二〇〇、〇〇
報酬及手當	二、九四〇、〇〇
地代	二六四、六〇
借室料	三六〇、〇〇
會合費	五〇〇、〇〇
什器	二〇〇、〇〇
圖書費	一五〇、〇〇
工學會々費	二〇〇、〇〇
豫備費	一〇、一三

合計

一二、一九四、七三

右及報告候也

大正十三年三月二十九日

日本鐵鋼協會々長

理事 倭國 一

○議長(倭國一君) 唯今朗讀いたしましたやうに財産目録に於きまして備考に記載して置きました通り誠に残念なことでありますが、三萬八千圓ばかり財産を減少いたしました、是は家屋、什器、土地等の損失其の他昨年度の經常費に於て不足するのであります、其の爲に斯う云ふ減少を致すことになりました次第であります、御質問の御ありになる方はございませぬか……別に御質問がございませぬと云ふと、會務報告及び會計報告に付きましては御賛同を得ましたものと認めまして宜しうございますか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○議長(倭國一君) それではさう云ふことに致します。

○議長(倭國一君) 通常總會に於きまして役員の投票の結果を申上げる筈であります、まだ取調べが付きませぬのであります、それで總會を延ばしまして途中に臨時總會の方を開きたいと思ひます、御異議がなければそれに致します。

午後二時四十五分臨時總會に移る

○會長(倭國一君) 臨時總會に於きましては定款の改正のこととであります。

議案

一、定款附則第四十四條削除の件

○議長(倭國一君) 豫ねて御手許に差上げて置きましたやう

に定款附則第四十四條削除の件、是は定款附則の第四十四條は斯う云ふのであります。

大正十二年三月三十一日の總會に於て選舉する理事の任期を一ケ年とす。

昨年の臨時總會で斯う云ふ定款の附則を入れることになりました、それと云ふものは會長と理事の改選期が喰ひ違つて居りましたのを揃へやうと云ふ意味で御賛同を願つて、斯うなりましたのであります、本年は此の定款附則に依つて會長、理事が滿期改選をされることとあります、最早や其必要がありませぬので、それで此の條項を削除しやうと云ふことであります、如何なものでありませうか。

【異議なしと呼ぶ者あり】

○議長(俄國一君) 別に御異議がありませんと云ふと此の定款附則第四十四條は削除することに致します、是で臨時總會を閉じます。ちよつと前申上げましたやうに通常總會の選舉の結果を御報告いたします、暫く御待ちを願ひます。

午後二時五十分臨時總會終る

○議長(俄國一君) 投票の結果を御報告いたします。

○加藤榮君 唯今投票を開票いたしました所百二十三票であります、其の結果を申し上げます、會長に多數で當選になりましたのは川村驍君で百二十二票、理事の方は川村驍君、俄國一君、今泉嘉一郎君、鹽田泰介君、香村小録君が各百二十二票でございます、評議員は原田鎮治君百二十三票、大塚榮吉君百二十二票と云ふ具合で後は一票乃至二、三票の差でございますから申上げることが略します、即ち左の通り選舉せられました。

會 長 河 村 驍 君

理 事

河 村 驍 君 俄 國 一 君 今 泉 嘉 一 郎 君

香 村 小 録 君 鹽 田 泰 介 君

評 議 員

原 田 鎮 治 君 大 塚 榮 吉 君 渡 邊 三 郎 君

門 野 重 九 郎 君 加 藤 榮 君 吉 川 雄 輔 君

横 堀 治 三 郎 君 高 洲 清 二 君 宗 像 十 郎 君

梅 野 實 君 内 田 德 郎 君 工 藤 治 人 君

松 田 萬 太 郎 君 牧 田 環 君 齋 藤 大 吉 君

水 谷 叔 彦 君 日 向 庄 作 君 (以上重任) (以下新任)

川 上 義 弘 君 寒 川 恒 貞 君 杉 村 伊 兵 衛 君

○議長(俄國一君) 是で總會を閉じます。時に午後三時。(拍手起る)

講 演 會

次に左の講演ありたり。(午後三時開會)

製 鐵 業 の 現 況

會 長 工 學 博 士 俄 國 一 君

支 那 製 鐵 業 に 就 て

漢 冶 萍 煤 鐵 廠 工 學 博 士 服 部 漸 君

最 高 顧 問 技 師 (講演時間一時間半)

F、W、磁 石 鋼 に 就 て

日 本 特 殊 鋼 工 學 博 士 渡 邊 三 郎 君

合 資 會 社 々 長 (講演時間一時間半)

傍 聽 者 百 餘 名 あり、頗 る 盛 會 裡 に 午 後 七 時 閉 會 せ り。

## 懇親會

暫時休憩の上、午後七時半より日本工業俱樂部食堂に於て懇親會を催す、出席者は左の諸氏（二十八名）なり。

倭國	一	香村小録	今泉嘉一郎
鹽田	泰介	河村曉	種子田右八郎
桂	辨三	吉川雄輔	野田鶴雄
大塚	榮吉	島岡亮太郎	堤正義
渡邊	三郎	服部漸	廣田理太郎
横堀	治三郎	川部孫四郎	松浦春吉
藤本	磐雄	東洋製鐵株式會社	行方畝三郎
古河電氣工業會社 化試験所		大矢喜兵	井上禧之助
井上	匡四郎	前川益以	杉村伊兵衛
林	幾太郎		

宴會の半に於て倭前會長並に河村新任會長の挨拶あり、續いて横堀博士の新舊兩會長に對する挨拶あり、尙今泉博士及び服部博士等の卓上演説ありて一同歡を盡し午後九時散會せり。

## ◎懇親會卓上演説

○倭國一君 ちよつと、前會長として御挨拶を致します、今日滞りなく第九回總會が濟みました、誠にめでたいことで、仕合せに存ずるものであります、私は今日を以て會長の任期が終へました次第であります、過去二年間會長の職務を汚しましたことでありまして、何等爲すことなく過したので、誠に恥しい次第であります、いつも會長の退任の御挨拶には大過なくと斯う云ふ御挨拶があるのがまあ例であります、

本日の總會に於て御報告申述べましたやうに、此期間に於きましては大變なことを仕出來したのでございます、本會の財産が六萬二千圓餘あつたのが三萬八千圓程昨年震災で無くなつた譯でありまして、誠に自分としては不仕合せでありまするし、又會として大變に遺憾なことであります、何とも申譯の無いことであります、何等會の爲に盡すことが出來ず、斯う云ふことに立至つたと云ふことに付きましたは誠に申譯の仕様が無いのでございます、併し我國の製鐵事業は此困難に際しまして段々と發展の氣運に向くやうに私は觀察いたして居ります、それと同時に本會に於きましても段々皆さんの御後援を得まして、一方に於きましては不景氣の爲に會員も減ずることもありますが、又他方に於きましては段々と新に入會せられる方も有り、つまり會員は益々増加致しました、殊に喜ぶべきことは誠に適任者たる新會長を載く様になつたことで、此機運を捉まへて益々本會の隆盛ならんことを偏に祈る次第であります、本夕は毎年の例と致しまして段々と皆さんの御意見を承りたい次第でございます、先づ第一に私の後任になられました河村新會長に一言述べて戴きたいと云ふことを希望いたします。（拍手起る）

○河村曉君 私が今回皆さんの御推薦に依りまして過つて會長の席を汚すやうになりましたことは誠に恐縮の次第であります、本會には我國製鐵界の元勳の御方、又元老たる御方も多數あります、又斯學界の權威者として知られて居る方々も多數あります、拘らず、淺學菲才の身を以て御受を致しますことは誠に僭越の次第と存じます、唯此先輩に依つて築き上げられ、改良せられ、今日の盛運に至つた本會を如何にし



て其基礎が動搖しないやうに維持して行くことが出来るかと云ふことを非常に心配するのでございます、併しながら皆様の御指導と御援助に依りまして出来る限り奮闘いたして見たい積りで謹んで御受を致しましてございませぬ、付きましては只今大した考の持合はして居りませぬが、一言所感と希望とを述べて見たいと思ひます。

此製鐵事業——鐵と鋼の事業が國防上のみならず國家經濟上に於て非常な重大なる關係を持つて居ると云ふことは、是は萬人認める所でありませぬが、此事が比較的十分に注意を拂はれて居ないのであるかと云ふことを恐れるのでありませぬ、國防上の事は暫く措き經濟上に就て鐵と鋼の統計をちよつと調べて見たのでありませぬが、今日も前會長から輸出入などのことに付て詳しい御説明もありましたが、私は數量のみならず價格の點に於てどう云ふ關係があるかと云ふことを調べて見たのでありませぬが、大正九年から昨年大正十二年の末までに輸入されました銑鐵の總額が百二十四萬一千三百九十二噸でありまして、約一箇年平均三十萬噸餘になつて居りませぬ、其總價格は九千三百九十九萬九千圓——約九千四百萬圓ばかりになつて居りませぬ、又鋼材の方は其四年間に數量として約三百五十萬噸壹ヶ年平均約八十八萬噸、其總價格にしまして六億六千六百萬圓、其鐵と鋼の兩方の價格を合計いたしますと云ふと四ヶ年間に七億六千六百萬圓になつて居りませぬ、一箇年平均いたしますと一億九千萬圓、約二億の輸入になつて居るのであります、そこで是が我國の貿易の輸入超過と云ふやうなものに對してどう云ふ關係であるかと云ふことを調べて見ますと云ふと——私は經濟の専門家でありませぬから、

詳しいことは存じませぬが——同期間、即ち大正九年から大正十二年までの期間に、貿易の入超過が十五億三千九百萬圓である、詰り鐵と鋼の輸入高は貿易の入超過の丁度半に達して居るのであります、それから更に其間に於て我國の正貨が幾ら減少したか、是は在外正貨は非常に減つた、又國內の正貨は金の輸出禁止などの關係で殖えて來た、それを差引しまして正貨の減少が三億九千萬圓、凡そ四億圓ばかりになつて居るのであります、詰り此入超過の十五億、それから正貨の減少の四億ばかり、其差額の十一億と云ふものは詰り運賃とか或は保険料とか、或は移民が送金したとか、或は債權債務の相殺で超過利子が日本に這入つて來たとか、或は外債に依つて我國の受取勘定になつたとか云ふやうなものになつて居るやうであります、詰り一箇年の平均にして見ますと云ふと、貿易の輸入超過は三億八千五百萬圓、正貨の減少は九千八百萬圓乃ち凡そ一億、鐵鋼の輸入は一億九千萬圓乃ち約二億圓斯う云ふことになるやうであります、今後我國の經濟界も素人には能く分りませぬが、日清戰爭に次ぐに日露戰爭を以てする、日露戰爭に次ぐに歐洲戰爭を以てすると云ふやうに、何年目かに好景氣が來ると云ふことは今日から豫想が出來ないのであるかと思ひます、今日の狀態で以て過去四箇年の平均のやうな狀況が今後十年も續いたらどうなるか、是は一箇年の數字よりも更に我々に明瞭に重大なる關係を示すのであります、丁度是は専門の方に譬を取つて言ひますと、鋼のストラクチュアを見るのに百倍の顯微鏡で見ると、僅にダークエリヤに見えるパーライトも千倍の顯微鏡で見ると云ふと、セメントタイトとフェライトのラミネーションが見えますや

うに、今の數字を十箇年に引延して見ますと云ふと、貿易の輸入超過は三十八億五千萬圓、正貨の減少が十億、鐵鋼の輸入高が十九億、詰り二十億ばかりの鐵鋼の輸入があるやうになるのであります、是は無論俵前會長の御話のやうに震災前の我國の不況の爲に鐵材の輸入が減つて居る、又震災の爲に鐵材の需要が増加して居る、そこらの關係で今後の變化は能く分りませぬが、假に前四箇年の状態が今年十年間續くとすると今申したやうな大した數字となるのであります、斯う云ふ重大な關係があるにも拘らず、無論今日の状態になる迄には朝野當局の方々が色々御苦心御盡力を重ねられたには違ひないが、併し現状及將來に就てそれに對する對策としてはただけの事が考へられて居る、是だけの實行策を持つて居ると云ふことを未だ不肖にして聽いたことが無いのであります、若し鐵鋼が日本で自給することが出来ましたならば少くとも正貨は減少しないと思ふ、其鐵鋼の自給と云ふことが果して出来るや否や、無論非常に困難なことであると云ふことになるに違ひないが、併し困難であらうが、何であらうが、是非共是は實行對策を作らねばならない事柄であらうと考へるのであります、斯う云ふ風な意味に於きまして本會でも無論學術上の事、色々な研究に關することはまだ日本は外國から見れば後れて居るのでありますから、無論研究に關するとも十分盡さねばなりません、國家に重要な政策に關すること、鐵と鋼の政策に關することも……我々には分りませぬが、それ／＼會員の中に御専門の方もあると考へますから、學術上の研究と並に經濟政策に關すること、鐵鋼の政策に關すること、輸入防遏、自給自足に關する對策などにつて雜誌

に有益なる論文をもう少し御寄稿願いたいと考へるのであります。尙ほ會の事に付きましては色々役員會の決議も必要である、評議員會の決議も必要であるので、私が獨斷で茲に希望を申述べますことは、僭越であります、先づ第一番に先程俵前會長の御話の如く、本會は非常に震災の打撃を受けまして、今日に於ては御承知の如く本館の鑛山懇話會の一室の隅を借受けまして事務を執つて居るやうな次第であります、外の方から圖書とか或は雜誌などの寄贈を受けても之を整理して置く場所も無いやうな慘めな有様であります、新築とか、或は復舊とか、或は再興と云ふやうなことになりますと云ふと、是は色々議論もありませうし、又問題も大きくなりますが、どうかして獨立した一室位の事務所を持ちたいと思ふのであります、第二に發行雜誌の問題であります、震災に依りまして此東京に在る印刷工場が多くが焼失いたしました、印刷に非常な不便を感じ、遂に前年も二ヶ月だけ不足が出来たやうな次第であります、紙數を減じて、紙の代價は兎に角、印刷費が非常に高くなつた爲に、尙ほ四割とか五割と云ふやうな經費が雜誌代として餘計に掛かると云ふやうな有様であります、是も在京の會員でありますれば、或は講演會があり、本會を利用する時機もあります、地方在住の會員の方では雜誌が唯一の本會から受ける利益であるので、會員を増加し、會の發展を計らうと思へば、どうしても雜誌の改善と云ふことが必要であるのであります、それから講演會のことでございますが、是は前會長の御盡力に依りまして從來に比しまして餘程講演の回數が増しまして、凡そ隔月に有益なる講演會を開かれたのであります、此講演會を

尙ほ今後は押廣めて、獨り東京のみならず、製鐵の中心地たる、或は北九州であるとか、或は阪神地方あたりで時々開催すると云ふやうな氣運を作りたいと云ふ希望を持つて居ります、殊に來年は本鐵鋼協會の創立滿十周年に相當いたしますので、場所に付てはまだ色々議論もあることと考へます、或は本部の所在地の東京に於て之を開いたが宜からう、或は日本の製鐵事業の最大の中心地たる八幡方面に於て之を開いたが宜からう、色々説もありませうが、兎に角此十周年の紀念大會は相當に盛大に之を行ひたいものであると考へます。それから本會の事業としまして昨年以來術語選定の事業が行はれて居ります、此事は學界に於きましては或は原語を使つた方が便利で、容易であるかも知れませぬが、一般に國民に鐵鋼知識を普及する上からはどうしても邦語のテクニクスが必要であると考へます、それも方々で區々な術語を使ふと云ふことは不便此上もない、どうしても之を統一すると云ふことで、編輯員諸君の非常な御盡力に依つて、着々と今整理をして居るのであります、是は遠からず會員諸君に印刷物を提供するの時期に達ししたいと希望いたします、最後に是も前會長の御考案に依りまして本邦の鐵鋼に關する化學分析の方法を統一すると云ふ案が出て居ります、昨年評議員會の議決を経て既に重なる工場主の承諾を得てあるのであります、震災其他の事故に依つて今日に延びて居ります、其方法と申しますのは、單に分析上のメソッドを決めるのみならず、其ディテールに付て統一すると云ふ、至極重要にして有益なる御發案であると考へます、是も出來るだけ早く着手したい、其他役員の方なり、會員諸君の御方々に色々な御

希望もありません、で斯う云ふことを執行ひますに付きまして先だつものは資金であります、資源が無くては何も出來ない譯であります、然るに今日に於きましては御承知の通り非常に一般の不景氣であつて、到底一般から寄付金を徴収するの時機でない、是はどうしても會員の増加、特志者の贊助に俟つより外に之を解決する方法は無いかと考へます、此點に付きまして將來特に皆さんの御盡力御助力を仰ぎたいと考へますのであります、一言御挨拶傍々希望を述べました次第であります。(拍手起る)

○横堀治三郎君 私に僭越ながら會員としまして新舊兩會長に一言御挨拶を申し上げます、俵前會長は二箇年間、我々が親善して居ります所の日本鐵鋼協會の會長として能く重任を盡されましたことは私共一同の深く感謝する所であります、偶々歐洲戰亂に續きまして世界の經濟界が非常に攪亂して、其影響を受けて我が製鐵業にも多大の變動を來たしたことは皆さんと共に甚だ遺憾とする所でありますが、加ふるに又昨秋の震災でありまして、重ね々製鐵界に於ての困難を惹起すやうなことになつたのであります、さう云ふ折柄にも拘らず、先刻俵會長の御話がありました如く大體に於て我が製鐵業の形勢と云ふものは漸次進歩の域に向つて居ると云ふことであります、是は其事業當事者の拮据奮勵に依る所のものは勿論であります、又鐵鋼協會として直接間接に盡された所の功績も少くないこと存じます、其會に長となつた俵博士が、無論内外共に色々貢獻せられた所のものが多いことと信じまして、誠に同博士の御盡力に對しては深く謝さなければならぬのであります。そこで先刻服部博士の支那製鐵業に付

て御話のありました中に大冶の製鐵所の如きは昨年の夏から事業を始められたのであります其出來た所のピグは日本に輸入せられて、日本の製鐵界の爲に非常な利益を與へられて居ると云ふことは申すまでもないことであります、又渡邊博士の御演説の中にも誠に有益なる所の御發見がありました、それに依つて我が生産事業の上にとんないかに利益を導かれたことと思ひます、斯の如くして今日御話になりました範圍に於きましてさへも既に我が製鐵界に於て新しい所の企、新しい所の試みが見られて居るのであります、それを以てしても尙ほ此鐵鋼協會が間接直接に携はつて力が有つたと云ふことを證明して餘あると私は思ふのであります。申すまでもなく俵博士は我國に於ける製鐵界の泰斗としまして、我々の日夜敬慕して居る所の方であります、獨り事業界のみならず、又學術界に於て盡された所のものも少くないことは申すまでもないことであります、右様な次第でありまして、俵會長としまして結局我國製鐵界の爲に御盡し下さつたことを皆様方と共に深く御禮申上げるのであります。

次に新會長に一言申し上げたいと存じます、唯今河村新會長の御話の中に段々御抱負を伺つたのであります、誠に結構な御抱負と存じます、河村新會長は新進の専門家でありまして、既に事業界に於て盡されて居る所のものは皆さん御存知であります、尙ほ學術界に於ても、或は知識階級に於きまして、既に世の定評のある方であり、斯の如く學識に於ても、又技術實力に於ても合せ備へて居る所の新會長、殊に又私共の大いに喜とする所は若い所の、極く元氣潑瀾たる所の會長でありますから、誠に一段と私共は愉快に思ふ

のであります、實は私も何か御挨拶をしろと云ふことでありましたので、日頃考へて居つた事の一部分を申述べやうと思つた所が、先に河村會長から仰せられたので、誠に愉快に堪へないのであります、一層河村新會長の御抱負に付きましてどうか僅でも此製鐵の國策と云ふことを私は御研究を願ひたいと思ふのであります、製鐵ばかりではない、一體に工學に關する國策と云ふものが立つて居らぬと云ふことは私は痛切に感じて居るのであります、其一つとして鐵の方にも私は國策が徹底して居らないかと思ふのであります、今泉博士にしても、或は服部博士にしても、それ／＼製鐵界に於て御盡力になり、或は國家問題として御研究になつたことは承知して居りますけれども、まだ是が國民的の、即ち國家的の問題として研究せられて居ないのを遺憾に思ふのであります、獨逸が曩きにアルサス、ローレンを取つて、あの發展をなしたと云ふことは何でありませう、畢竟獨逸が鐵に關する國策を立てて進まうと云ふ計畫があつたからこそ獨逸はあゝ云ふ狀況に至つたのだらうと思ひます、詳しいことは申し上げませぬ、皆さん私共より能く御承知であるかと存じます、日本の製鐵業に於て鐵鋼に對する所の方策と云ふものはどれ位研究されて居りませうか、私は甚だ其邊を疑つて居るのであります、日本の製鐵所に於きまして鐵鑛を安く買はう／＼と云ふことは研究せられて居るやうであります、如何にして此鐵鑛を完全に我々が之を保全するか、又之を將來に導くやうにするかと云ふことはどうも私は研究せられて居らぬやうに考へるのであります、大冶の鑛石を安く買はうと云ふことは……服部さんが前に居られて、甚だ何であります……色

60  
々研究せられて居りますけれども、支那の鑛石を安く買はうと云ふことは色々研究せられて居りますけれども、此支那の鑛石を如何にすれば之を保全することが出来やう、或は又日本に於てまだ開發せられて居らない所を如何にすれば利用することが出来やうと云ふことは私は研究が聊か缺けて居りはせぬかと云ふことを日頃憂へて居る一人であります、偶々河村新會長の先刻の御抱負の中に、さう云ふ國策に付ての御話がありましたから、私は此機會に於て聊か平素考へて居る所を述べ、河村新會長の御抱負に對して大いに共感し、共鳴して、俱に共に其御精神の徹底することを希望する次第であります、どうかさう云ふ意味に於て一段と新會長に御骨折を願ひたいのであります、さうすれば、先刻は單に製鐵所の問題で申上げましたけれども、渡邊博士の仰せられたやうに、日本の製鐵が發展しないと云ふことは色々潜んだことがあるだらうと思ふ、例へば骨肉相食むと云ふことはどうか知りませぬが、隣同士喧嘩したり、近所に同じ店が出来たりするとの爲に不況に陥つて居ると云ふことが無いとも限らない、さう云ふことも製鐵に關する根本政策が立ちましたならば、私は何等か茲に意義ある所の、確立したる所の方針を見出すことが出来るだらうと思ふのであります、どうかさう云ふ邊に付ても一層新會長の御盡力に俟つて、將來の國運を増進するやうに一歩たりとも進めて戴きたいと思ふのであります、要する所は、今の日本の狀況は唯西洋のそれに追付かうと云ふのであります、なか／＼そんなことでは及ぶものでない、それであるから、一層それを先んじて國策問題を以て行かなければどうしてもいかない、經濟問題だけではなか／＼い

ない、到底海外のものに及ぶことは出来ないと思ふのであります、もう少し大きい所で、國家問題として之に臨まなければなか／＼日本の製鐵業が安全なる所の解決を見出すとはむづかしいと思ふ、どうか其邊を宜しく御含みを願ひまして新會長の御抱負を徹底さして戴きたいと思ふのであります、ちよつと一言御挨拶を申上げた次第であります。(拍手起る)  
○今泉嘉一郎君 今夕は段々御講演並に晚餐席上に於ける御話が長くなりましたので、諸君が或は御退屈かとも考へますけれども、私も此の機會を利用して一言御話を申上げることが御許しを願ひたい、實は先程俵會長の御演說中、事業合同に於て御話がありましたことは聊か私の主張に合して居つた、次に此席に於きまして河村新會長の御言葉が更に又私の琴線に觸れた。而して唯今の横堀博士の御話は更に更に私の思潮を動かししました、故に私は自ら願つて茲に一言の所感を述べることが敢てした次第であります、新會長の仰せの如く世界各國とも製鐵事業なるものは元來軍備と經濟との二大目的に依つて出来たものであります、此際軍備のことは暫く措きましても、經濟と云ふものは始終人間生活に付き添つて參るのであります、殊に我國に於ける目下の重大問題、即ち輸入の大超過と云ふことに付ても、其最も大なる輸入品は何かと云へば第一位にあるものは四億圓の綿花で、次に來るものは二億圓の鐵鋼であります、更に其次に參りますものが一億五千萬圓の肥料であらうと思ひます肥料とか綿花などと申しますものにはちよつと我國で製産することが出来ないものが多くあります、鐵の如きものは皆是は日本で出来るものであります、唯出来るものを造らないと云ふ關係であります、誠に

直接生活のものが無ければならぬのであるが、之を今日どうしたら宜いかと云ふことが即ち我日本の製鐵事業の整理を如何にすべきかと云ふ問題が生ずる所以であらうと思ふ、日本の製鐵事業の整理を如何にすべきかと云ふことは實は古い問題でありまして、明治三十五年の製鐵事業調査會の際から始まつたのであります、其際に於ては官業を民業に移して經營すべしと云ふ決議になつて居ります、更に大正五年の製鐵業調査會に於ては官民製鐵所は競争を避け調和を謀るべしと云ふことになつて居る、更に大正九年より十年に掛けた臨時財政經濟調査會に於ては、製鐵事業は之を合同經營するを必要と認むと云ふことを決議して居る、私も大正九年の總選舉の際に時の總理大臣から、折角臨時財政經濟調査會で決めた案を、之を實行することにするのは恐らく今後來るべき選舉に多數を得た政黨の仕事であるから、君も一つ議會に這入つてやつて見たらどうかと云ふ、其一言が何となく氣に入つたので、實は此問題の解決を第一の目的物として衆議院議員になつた譯であります、ところが這入つて見ますと、八八艦隊であるとか、或は二十二師團であるとか、或は所得税改正であるとか何とか彼とか、色々緊急な問題が續出して、自分は議會開會中には大政黨の政務調査會副會長にもされて居りましたが、此製鐵問題に觸れる機會の乏しかつたのであります、夫れと申すも製鐵事業を如何に整理すべきかと云ふ具體案と云ふものが官民ともに立つて居らないからであります、當時大藏大臣であつた高橋君などは此事に付て最も心配された一人で、どうか製鐵事業を整理して其振興を謀らなくてはならぬ、夫れには或はカルテル的合同でもやつたらどうかとも申

された位であります、そこで民間に於きましても日本鐵鋼協會を初め日本工業俱樂部其他實業間に於ても種々心配されたが何れも是れと云ふ具體案が無い、政府に案が無く、民間に案が無く、當局の實業家にも案が無い、其案の無い人達が集つていくら心配して見ても何にも出來べきものでない、そこで私は考へた、是はまだ議會に列して見てもだめだ、假令一年や二年外のことを休めても一つ充分研究して所謂具體案なるものを定めて懸らなければならぬとさう決心したのであります、そこで若し幸にして案が出來ましたならば諸君の御援助の下に政府なり或は議會なりに提案して其實行を遂げしむると云ふことになるのが一番近道であらうと考へた次第であります、此様な次第でありますから今日まで何等具體案はないのであります、然らば何にもないかと云ふと唯空漠たる抽象的な案は色々あります、諸君の御承知のものもありませんやふだが今此處に御紹介致しますれば

第一には所謂「事業合同案」官民の製鐵業を總て合同して、同一資本の下に仕事をしやうと云ふ案であります、此案に付きまして色々既に論議されて居るが、まだ具體的になつて居らぬのであります。

第二の案は「局所的綜合案」で總てを合同する必要は無いが、局所々々で宜いからして、製鐵業を綜合して二つなり、三つなりの集團にすると云ふ案、即ち製鐵事業の中、製銑、製鋼、製品の三部を局所局所で夫々綜合して、大なり小なり完結したものにする、さう云ふ綜合的集團が日本に二つあつても三つあつても宜いが、さう云ふものが夫れ／＼出來た處で國家としては其最後の製品即ち鋼材に對して必要な保護獎

勵を加へることになると云ふ案であります、此案に付きましては從來政府内にも主張者があつた様である。

第三は「利害協約的聯合案」是は最近私が獨逸戦後の利害協約即ちインテレスセンゲマインシャフトを紹介してから殊に諸方面に於て賛同され來つた様であります、それは合同とか、或は綜合とか云ふことは一部企業の獨立を廢し、重役の個人的立場に變化を生ずると云ふ關係から、そこに種々なる不便もある、けれどもさう云ふことに關係をせず、協約に依つて合同と略々同じやうな目的を達して行くこと云ふ案であります。

第四は「鋼主銑從案」是は數年前から既に唱導されて居る案でありまして、唯今新會長の言はれた輸入防遏を最も早く成功しやうと云ふ案であります、それは鋼材を主として銑鐵を從とすると云ふのであります、今日日本の鐵の輸入の九割ばかりは鋼材であります、此鋼材を早急に自給自足すれば、是は一番輸入防遏に效力がある、又仕事も此方が樂である、自國で銑鐵を造らなければ製鐵事業の本旨をなさぬと云ふ議論もあるけれども、今日の經濟觀からすれば原料である銑鐵は假令一時他から供給を仰ぐとしても先づ以て高價の製品たる鋼材から防遏して行くのが宜い、即ち銑鐵は後廻しとして鋼材に對して充分の關稅を課し外品の輸入を絶滅する、さうすれば銑鐵の需用も自然に起ること、又必要に應じて關稅以外の保護を銑鐵に加へることにしてもよいと云ふ案であります。

第五の案としては「鐵專賣法案」では是は兎に角斯の如く種々な關係のある製鐵事業、何れの方法に依つても各々困難が

あるからして、是は寧ろ日本の從來やつて來た專賣法に依るが手取り早い、現下の專賣に鹽專賣と云ふものもあり、烟草專賣と云ふものもある、烟草專賣は收入を主とするが、鹽專賣は收入を主とするものではない、一朝有事の時の用意として平常保護して行く意味の專賣事業である、其鹽專賣の様に製鐵業を專賣にするが宜い、即ち民間の製鐵所の製産物を政府が事業維持に必要な程度の一定の價格を以て買上げ一定の價格を以て拂下げる、外國から輸入する所の鐵材に對しては十分なる輸入税を課すると云ふのであります、唯今まで略々有力なる案として私が聽いて居る者は此五つの案です。

此五つの案に付て具體的に研究し、其利害を攻究することは容易ならぬことであります、種々なる方面から、種々なる材料に依て研究しなければならぬので、是をなすことは私は多少の日月を費さなければならぬと思ふのであります、どうぞ皆さんに於きましてもそれ以上の案があると云ふことならば是非御聽かせ願ひたい、私は短才微力を顧みず今後は是非さう云ふことを研究して聊か國家に貢獻したいと云ふ考だけは持つて居るのであります、此機會に於て一言所感を申述べまして諸君の御援助を乞ふ次第であります。(拍手起る)

○服部漸君 此の間に服部博士の先刻講演の残りなる「我國と漢冶萍公司との關係」に就て演説ありたるが、之は便宜上同講演速記の方に接續することとし、茲には省略せり。

○俄國一君 ちよつと御挨拶を致します、今夕は段々色んな御話がございました、厚く御禮を申し上げます、又先程會長に對して丁寧なる御挨拶を載きました併せて御禮を申上げる次第であります今夕は是で散會いたします。(時に午後九時)

◎製鐵業用語選定 (第八回)

本年二月號に掲載せる製鐵業用語選定の結果左の如し、之に關して御意見あらば御通知を乞ふ。

英 語	會 員 よ り 回 答 語	決 定 語	摘 要
Bleeder Down take (Down counter) Throat Bell (cone) Hopper (cup)	瓦斯飛ばし 瓦斯捕集管、瓦斯下降管 爐頂、爐口 裝入鐘 (コーン) 裝入漏斗 (カップ)	瓦斯非常口 (瓦斯飛ばし) 瓦斯捕集管 爐頂 裝入鐘 裝入漏斗	
Explosion door Bell valve Dust catcher Gas purifier Gas washer (cleaner)	爆發口 鐘狀辨 除塵器 瓦斯清淨器、瓦斯清淨機 瓦斯洗滌器、瓦斯洗滌機	爆發口 鐘狀辨 除塵器 瓦斯清淨機 瓦斯洗滌機	
Dust pocket (bin) Checker Heat balance. Mud gun (Clay gun) Blowing-in (of B. f.)	ダストポケット、降塵室、除塵室 格子積、蓄熱室チェッカー、蓄熱室ギッター 熱量對照 マッドガン、出銃口閉塞機 吹入、吹立	除塵室 格子積 熱量對照 出銃口閉塞機 吹入	
Blowing-out (of B. f.) Sinter Mantle Slag wool Slag pond	吹止 燒附け、燒附ける、燒結 鐵套、マントル、外壁 鑛滓綿 鑛滓池	吹止 燒結 鐵套 鑛滓綿 鑛滓池	



<p>Slag brick Slag cement Shaft furnace Hanging Scaffolding</p>	<p>鑛滓煉瓦 鑛滓セメント 高爐セメント 直立爐 懸滯 棚吊、懸滯</p>	<p>鑛滓煉瓦 鑛滓セメント 直立爐 懸滯 懸滯</p>	
<p>Seafoal Bellows Blower (Blowing engine) Iron pipe stove. Two pass stove</p>	<p>棚 鞴 送風機 鐵管熱風機、鐵管熱風裝置 二路式熱風爐</p>	<p>棚 鞴 送風機 鐵管熱風裝置 二路式熱風爐</p>	
<p>Three pass stove Top heat (of B. f.) Lining Shell Spongy iron Reducing zone</p>	<p>三路式熱風爐 爐頂過熱 爐頂熱 裏附け、裏積、ライニング、被覆 鐵皮、外壁、外皮、マントル 海綿狀鐵、海綿鐵 還元層、還元帶</p>	<p>三路式熱風爐 爐頂過熱 裏積 鐵皮 海綿鐵 還元帶</p>	